

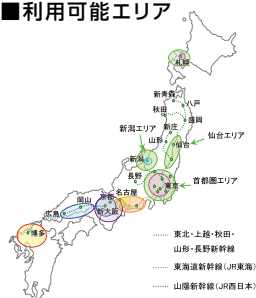
特集4 Suica10周年と今後

2001年にサービスを開始した「Suica」は、おかげさまで2011年11月18日をもって10周年を迎えました。Suicaの発行枚数は4,000万枚を超え、電子マネーサービスや他の交通系ICカードとの相互利用により、ご利用の場は全国に大きく広がっています。

■ Suicaの現状

Suicaは、2001年11月18日に、首都圏の424駅でご利用になれるIC乗車券としてサービスを開始しました。その後、利用エリアの拡大や相互利用の推進、電子マネーサービスなどご利用の場の拡大、携帯電話と一体化した「モバイルSuica」やクレジットカードと一体化した「Suica付きビューカード」など、お客さまのニーズに合わせたサービスを展開し、いまや「Suica事業」は、「鉄道」、「生活サービス」に続く当社の経営の第3の柱として進化を続けています。

■ 利用可能エリア



「ビュー・スイカ」カード (2003年7月～)



Suica 電子マネー (2004年3月～)



モバイルSuica (2006年1月～)



Suica ポイントサービス (2007年6月～)



Suica インターネットサービス (2009年7月～)

□ Suicaに関するデータ (2012年7月末時点)

- Suica発行枚数:約4,020万枚 (内電子マネー対応 約3,790万枚、モバイルSuica会員数:約292万人)
- 利用可能駅数:JR東日本管内【鉄道】759 駅、全国【鉄道】38事業者【バス】89事業者
- 利用可能店舗数・箇所数 (端末台数):約183,180店舗・約337,790箇所
- 1日の最高利用件数 約340万件 (2012年7月27日) ● 月間利用件数 約8,703万件

■ Suicaのこれから

「Suica事業」を経営の第3の柱としてさらにステップアップさせていくため、利用エリアや相互利用ネットワークのさらなる拡大、電子マネーの普及・発展に取り組みます。

具体的には、全国の10の交通系ICカードの相互利用を2013年春に実施し、Suicaの利便性をさらに向上させます(これにより、新たにトランパスIC協議会の「manaca(マナカ)」、スルッとKANSAI協議会の「PiTaPa」との相互利用を実施します)。また、2013年春には新潟交通「りゅうと」エリアで、2013年度には札幌市交通局「SAPICA」エリアでSuicaが利用可能となる予定です。

電子マネーについても、生活に密着した分野を中心とした、Suicaに親和性がある決済シーンを拡大することによって利便性の向上を図ります。また、Suicaの情報をマーケティングデータとして活用する新たな取り組みを進めていきます。

■ 全国相互利用イメージ (2013年度以降)

